

講師

木村 宣哉

きむら のぶや



取得学位	修士・学士
研究室・ユニット名	公衆栄養学
研究キーワード	ヘルスリテラシー
	地域アセスメント

ヘルスリテラシーや地域アセスメントに関する研究

研究の概要・特徴

【ヘルスリテラシー】

ヘルスリテラシーとは、健康に関する情報の収集・理解・評価・活用を指す概念です。最近注目を浴びてきた分野であり、アメリカでは健康政策においても重要なトピックスとして掲げられているほか、日本においても経済産業省の健康経営制度の評価指標となっています。これまでの研究によって、ヘルスリテラシーが低いことは、予防サービスを活用しない、慢性疾患の管理が困難、職場で怪我をしやすい、死亡率が高い等々が報告されています。

これまでの私の研究では、労働者においてヘルスリテラシーが高い人は低い人に比べて健康診断受診行動がみられることを明らかにしたほか、ヘルスリテラシーが高い人で野菜類摂取量が多いといったことを明らかにしています。

【地域アセスメント】

主に自治体において保健医療従事者が地域の健康課題を把握するために実施するのが地域アセスメントです（地域診断や地区診断とも言います）。近年は行政仕分けなどを背景に、行政が行う事業計画に関しても相応の根拠を示すことが重要視されており、地域アセスメントは保健医療従事者にとって必要な能力となっています。

これまでの研究として、市区町村の健康増進計画策定における栄養・食生活におけるアセスメント項目の重要性・入手可能性について明らかにしています。

産業界等へのアピールポイント（用途・応用例等）

ヘルスリテラシーは最近ではアメリカの健康政策にも重要なトピックスとして扱われているため、今後の日本の健康政策においても重要性が増すことが考えられます。また、地域アセスメントは、現職の保健医療従事者において重要な実践能力の一つであることから、地域アセスメントに関する研究は教育や研修などにおいて一定のニーズが存在するといえます。



研究シーズ一覧